

| | | | | | |
|------|-------------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | リコーダー合奏 A,B | 形態 | 演習 | 開講期 | 春・秋 |
| 担当教員 | 竹内 梓 | 単位 | 1 | 年次 | 1 |

●授業科目の目標

ソプラノリコーダー（バロック式、ジャーマン式）、アルトリコーダー（バロック式）の実技演習を、ギースベルトの教本を用いて行ない、初歩の曲の演奏の習熟をめざす。

●履修上の条件及び履修の方法

ソプラノリコーダー、アルトリコーダー共にバロック式を持参のこと。
ギースベルトの教本を主に、アンサンブルの曲を併用し合奏をする。

●試験方法及び成績評価方法

試験は、集中講義の最終日に、ソプラノリコーダー、アルトリコーダーによる各1曲ずつの独奏をあてる。
成績は、試験の結果と出席状況を考慮して評価する。

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：ギースベルトリコーダー教本、著者名：F. J. ギースベルト、出版社：日本ショット株式会社、販売先：生協
《No.2.》書籍名：ソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーのためのリコーダーメソッド、著者名：F. J. ギースベルト、出版社：日本ショット株式会社、販売先：生協

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ジャーマン式、バロック式の相違
- 3回 タンギング、スラーの奏法
- 4回 リコーダーによるピッチカート
- 5回 フレーズとブレスの関係
- 6回 ボルタート、ノンレガート、スタッカートの奏法
- 7回 低音のタンギング
- 8回 トリル及びそれに伴う替指
- 9回 ダブルホールのスムーズな運指
- 10回 クロマティック
- 11回 最高音域
- 12回 装飾法について
- 13回 独奏のためのテクニック
- 14回 18世紀の巨匠による独奏曲
- 15回 独奏による試験

| | | | | | |
|------|--------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | リトミックⅠ | 形態 | 演習 | 開講期 | 春学期 |
| 担当教員 | 伊藤 陽子 | 単位 | 1 | 年次 | 2 |

●授業科目の目標

身体の全ての機能を使って、音楽（リズム、メロディ、ハーモニー）を体験し、表現する。
基礎的な能力を養い音楽についての概念を形成する。
身体を楽器として空間を動くことで音の動きや方向性、エネルギーを感受する。
音楽に対して筋肉の反応を機敏にすることで、感じる能力を高め、より音楽的な演奏への手助けとなるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・全員が必ず参加すること。見学は基本的に認めないものとする。
- ・動きやすい服装で、素足、または、バレージューズ、ダンスシューズを履く。
- ・リトミックⅠ・Ⅱと履修することで、基礎的な能力が高まり、ダルクローズ=リトミックへの理解も深まるもの考える。

●試験方法及び成績評価方法

授業時間内に実施する課題の到達度と出席状況や授業態度などを加味して総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
楽器としての基本的な身体の使い方 即時反応について
- 2回 Beat（拍）
- 3回 Tempo-Dynamics-Space の関係について
- 4回 拍子
- 5回 拍子の構造とAna Crusis
- 6回 2種類のBeat、リズムへの応用
- 7回 単純拍子と複合拍子
- 8回 ヘミオラ①6/8と3/4
- 9回 ヘミオラ②3/4と3/2
- 10回 音程
- 11回 フレーズとダイナミクス①
- 12回 フレーズとダイナミクス②
- 13回 混合拍子
- 14回 変拍子
- 15回 子供の指導法について まとめ

| | | | | | |
|------|--------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | リトミックⅡ | 形態 | 演習 | 開講期 | 秋学期 |
| 担当教員 | 伊藤 陽子 | 単位 | 1 | 年次 | 2 |

●授業科目の目標

身体全ての機能を使って、音楽（リズム、メロディ、ハーモニー）を体験し、表現する。
基礎的な能力を養い音楽についての概念を形成する。
身体を楽器として空間を動くことで、音の動きや方向性、エネルギーを感じる。
音楽に対して筋肉の反応を機敏にすることで、感じる能力を高め、より音楽的な演奏への手助けとなるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

- ・全員が必ず参加すること。見学は基本的に認めないものとする。
 - ・動きやすい服装で、素足またはバレシューズ、ダンスシューズを履く。
 - ・リトミックⅠ・Ⅱを履修することで、基礎的な能力が高まり、ダルクロワズ、リトミックへの理解も深まるものと考えられる。
- 秋学期からの履修生に対しては、各授業の課題を体験する上で、必要と思われる春学期の内容を復習する。

●試験方法及び成績評価方法

授業時間内に実施する課題の到達度と出席状況や授業態度などを加味して総合的に評価を行う。

●テキスト（必携）

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
Beat-Tempo-Dynamicsの関係
- 2回 休符
- 3回 静的休符と動的休符
- 4回 補足リズム①
- 5回 補足リズム②
- 6回 ダルクロワズスケールと調性
- 7回 シンコペーション
- 8回 縮小、拡大①
- 9回 縮小、拡大②
- 10回 属七の性質とハーモニー
- 11回 3：2
- 12回 カノン①
- 13回 カノン②
- 14回 形式
- 15回 子供の指導法 まとめ

| | | | | | |
|------|---------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | 臨床医学各論Ⅰ | 形態 | 講義 | 開講期 | 春学期 |
| 担当教員 | 加藤 雅典 | 単位 | 2 | 年次 | 2 |

●授業科目の目標

「健全な精神は健全な肉体に宿る」と言われておりますが、心身の良好な状態とそうではない状態を学ぶことにより、人生の価値を知ることが出来ます。芸術も心身の良好な状態を保つことに大きな役割を果たしております。音楽療法士をめざす学生にとって必要かつ十分な医学知識を習得することが出来ることを目指しております。

●履修上の条件及び履修の方法

特になし

●試験方法及び成績評価方法

- ・学期末の筆記試験（評価の80%）及び授業への参加姿勢（評価の20%）
- ・択一式、記入式、記述式試験

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：臨床ナースのためのBasic&Standard 精神科看護の知識と実際、著者名：吉田佳郎他、出版社：MCメディア出版
《No.2.》書籍名：（新訂）目でみるからだメカニズム、著者名：堺章、出版社：医学書院

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 解剖生理学
- 3回 診断学総論
- 4回 総合失調症
- 5回 双極性感情障害
- 6回 神経症
- 7回 神経症
- 8回 人格の障害
- 9回 精神遅滞、心理的発達障害
- 10回 脳器質性障害
- 11回 リハビリテーション
- 12回 老年運動器障害
- 13回 アレルギー性疾患
- 14回 総復習（1）
- 15回 総復習（2）
- 16回 期末試験

| | | | | | |
|------|---------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | 臨床医学各論Ⅱ | 形態 | 講義 | 開講期 | 秋学期 |
| 担当教員 | 加藤 雅典 | 単位 | 2 | 年次 | 2 |

●授業科目の目標

音楽療法士をめざす学生のみならず、一般教養として必要な医学的知識を習得することを目標とします。人間を癒すことを通じて、音楽の持つ意義、さらに人格をみがくことに通じるよう右記の領域を習得してもらいます。

●履修上の条件及び履修の方法

特になし

●試験方法及び成績評価方法

- ・学期末の筆記試験（評価の80％）及び授業への参加姿勢（評価の20％）
- ・択一式、記入式、記述式試験

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：病気の地図帳、著者名：山口和克、出版社：講談社
 ≪No.2.≫書籍名：（新訂）目でみるからだのメカニズム、著者名：堺章、出版社：医学書院

●授業内容

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 解剖生理学
- 3回 動脈硬化症、高血圧症、心臓の病気
- 4回 脂質異常症、糖尿病
- 5回 胃の病気
- 6回 大腸の病気
- 7回 肝臓の病気
- 8回 乳腺の病気
- 9回 外傷
- 10回 関節の病気
- 11回 腰痛症
- 12回 皮ふの病気
- 13回 感染症
- 14回 総復習（1）
- 15回 総復習（2）
- 16回 期末試験

| | | | | | |
|------|---------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | 臨床心理学入門 | 形態 | 講義 | 開講期 | 春学期 |
| 担当教員 | 目黒 達哉 | 単位 | 2 | 年次 | 3,4 |

●授業科目の目標

現代社会は子どものいじめ、不登校の問題から高齢者のうつ病まで精神保健上の問題を抱えている人が増加傾向にあると思われる。この講義では担当者が臨床場面で経験した事例を紹介し精神保健に関連した諸問題に対応する臨床心理学的基礎知識や技術を学ぶ。
 臨床心理学の3つの柱は、臨床心理査定法（心理テスト）、臨床心理面接法（カウンセリングなど）、臨床心理的地域援助である。これらの方法が臨床場面でどのように有効に活用されているのかを解説する。
 尚、適宜、小グループによるディスカッション形式を取り入れ学生参加型の楽しい授業を展開することができるようにする。

●履修上の条件及び履修の方法

学生の皆さんの積極的な参加を望む。

●試験方法及び成績評価方法

総合評価
 ・定期試験に随時レポート、平常の学習状況、出席状況等を加え総合評価する。

●テキスト（必携）

書籍名：こころのケア ― 臨床心理学的アプローチ ―
 著者名：池田勝昭・目黒達哉共編 出版社：学術図書出版
 販売先：生協

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 動機について ～なぜ精神保健・臨床心理学を学ぶのか～
3. 心の問題と背景にあるもの
4. 臨床心理学とは
5. 精神保健・心理カウンセラーとは
6. いじめ
7. 不登校
8. 児童虐待
9. 摂食障害
10. うつ病と自殺
11. 精神障害
12. 高齢者・障害者の心理
13. 心理アセスメントとその留意点
14. 心理療法（カウンセリングなど）
15. まとめ